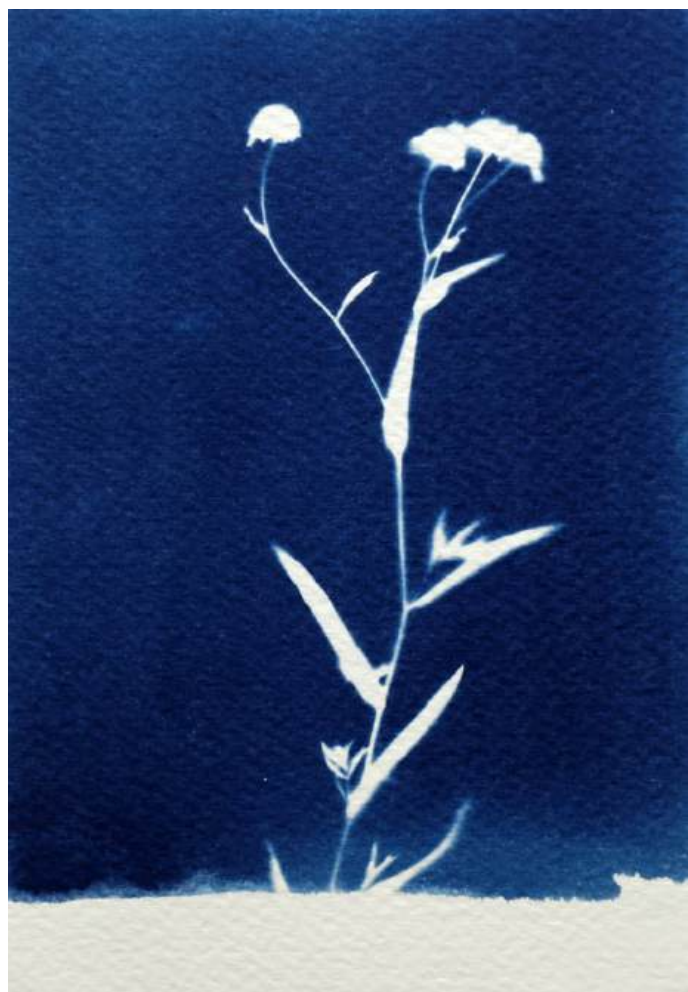


青写真 ワークショップ

CYANOTYPE WORKSHOP

 土門拳写真美術館
Ken Domon Museum of Photography

2025 **9/20** 土
10:00～15:00 小雨決行



(左) フォトグラム：《草のフォトグラム》サイアノタイプ, 2018年
(右) 青写真プリント：《ハンカチの木》サイアノタイプ, 2025年
千葉奈穂子

青写真(サイアノタイプ)は、太陽の光を使って焼き付ける古典的な写真技法のひとつです。紫外線に反応して、写真の像が美しい青色で浮かび上がります。どなたでも、写真づくりの楽しさを味わえます。



今回は、感光液を塗って印画紙を作る
ところから、印画紙の上に直接、草花
などを置いて像を写し出す「**フォトグ
ラム**」と、デジタルネガフィルムを用
いた「**青写真プリント**」を体験してい
たできます。

会 場	土門拳写真美術館
対 象	高校生以上
講 師	写真家・千葉奈穂子
定 員	15名/要申込・先着順 * 申込受付は8月4日(月)から
材 料 費	2,000円 (入館料別途) * 特別展期間中入館料1,300円 高校生650円・年間入館券使用可
申込方法	0234-31-0028まで

内容紹介

今回のワークショップでは、印画紙の上に直接、草花などを置いて像を写し出す「フォトグラム」と、デジタルネガフィルムを用いた「青写真プリント」の2種類に挑戦します。感光液を塗って印画紙を作るところから始まり、太陽光での露光、水洗、乾燥といった一連のプロセスを体験しながら、自分だけの青い写真作品を完成させましょう。

写真ネガは、当館で数種類ご用意しております。ご自身の写真を使用したい場合は、事前にお電話でお申し込みのうえ、写真データをメールでお送りください（お一人2枚まで）。

メール送付先：kendomon.mop.2@gmail.com

受付締切：9月14日(日)（必着、届き次第担当者よりご連絡いたします）



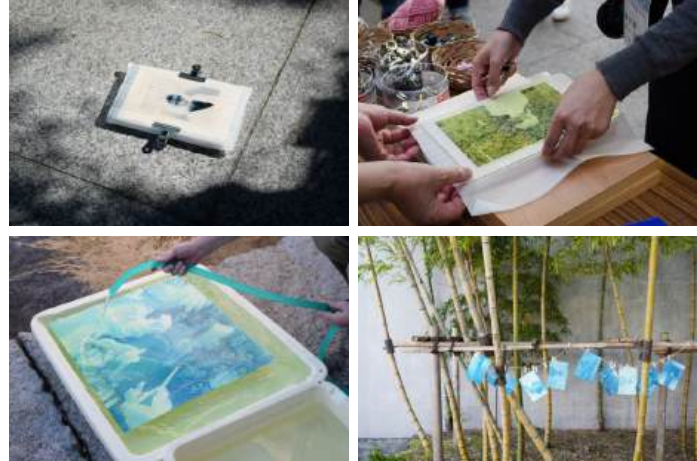
（左上）青写真プリント：《鳥海山と酒田港》サイアノタイプ, 2025年
（左下）青写真プリント：《フィルムカメラ》サイアノタイプ, 2025年
（右上）フォトグラム：《モノの影》サイアノタイプ, 2003年
（右下）フォトグラム：《草のフォトグラム》サイアノタイプ, 2018年
千葉奈穂子

【講師紹介】

千葉奈穂子（ちば・なおこ）

岩手県生まれ。現在山形県酒田市在住。岩手の過疎地に建つ家族の古い家と集落を1998年から撮影している作品『父の家 My Father's House』は、国内外で30回以上展示を行い、近代化の影響を受け変遷する集落の姿や、集落で見聞きした豊かな風土など、語られることのなかった土地の背景と物語を、写真とエッセイ、映像を用いて綴り、新作に取り組んでいる。

また、東日本大震災と原発事故後、福島県南相馬市を写す『Seaside Town 浜辺のまち』、フィンランドのラップランド地方に残る地域文化を撮影した『Northern Lights』などがある。個展やグループ展、アーティスト・イン・レジデンスでの制作、地域研究を基にした執筆も多数行っている。



2024年の実施風景

当日のスケジュール

【午前】

まずは青写真の技法や表現についての座学を行い、その後、印画紙を作って乾燥させ、プリントの準備をします。準備が整ったら、制作に使うモチーフを公園で探します。

【午後】

昼食休憩をはさんで、いよいよ制作に取りかかります。太陽光で露光し、水洗・乾燥までを体験しながら、自由に作品づくりを楽しめます。最後に、希望者で一枚の作品を共同制作し、終了となります。

館内に飲食施設はございません。お弁当をご持参いただくか、外食をお願いいたします（車で5分圏内に大学のカフェテリア、コンビニ、ラーメン店などがあります）

みんなの作品展

完成した作品は、9月21日(日)から10月5日(日)まで、当館にて展示いたします。

※9月25日(木)は展示替えのため休館いたします。

展示を希望される作品は、ワークショップ当日にお預かりし、会期終了後に郵送にてご返却いたします。



2024年作品展の展示風景



開館時間 9:00～17:00（入館は16:30まで）
入館料 一般1300円 / 高校生650円 / 中学生以下無料
山形県酒田市飯森山2-13（飯森山公園内/土門拳記念館）
TEL:0234-31-0028
<http://www.domonken-kinenkan.jp/>